

禅のお寺では、お手洗いの事を <sup>ひがし</sup>東 と言う字に <sup>つかさど</sup>司 ると書いて「東司」と言います。  
「東司」は七 <sup>しちどうがらん</sup>堂伽藍と呼ばれる建物の一つで、<sup>ぶつでん</sup>仏 <sup>さんもん</sup>殿や山門、<sup>ざぜんどう</sup>坐禅堂などと並び禅  
のお寺では大切な場所です。

「東司」には「<sup>うす</sup>烏 <sup>さまみょうおう</sup>枢沙摩明王」という仏様を <sup>まつ</sup>お祀りしています。

この「烏枢沙摩明王」は、私たちの心の中にある、きれいなものと汚いものを分け  
て考える差別の心 <sup>いまし</sup>を戒め、心の迷いの元となる <sup>ほんのう</sup>煩悩を除いて下さる仏様であると言  
われています。

修行道場では修行僧は「東司」に入る時も、出る時もこの仏様に丁寧に合掌をしま  
す。その事によって、普段はおろそかになってしまうお手洗いで <sup>あわ</sup>の作法も、慌てずに  
心を落ち着けて行いう事が出来るのです。

日常生活のすべてを修行としてとらえる禅の修行では、「東司」と呼ばれるお手洗い  
も大切な修行の場所になるのです。

修行の場所である「東司」のお掃除は大切なものです。修行道場では、多くの修行  
僧が「東司」のお掃除を行います。特に、他の修行僧の模範となる僧侶が「東司掃除」  
を誰よりも丁寧に行い、毎日続けています。

このように「東司」と呼ばれるお手洗いは禅の修行には欠かせない大切な場所なの  
です。

私たちの生活の中でお手洗いを使わない日はありません。

お手洗いをうっかり汚してしまう事はありませんか？

また、つついお掃除もおろそかになってしまいませんか？

私たちは毎日、お手洗いを使い、お世話になっています。毎日の生活の中でお手洗  
いを丁寧に使おうと心がける事により、その行いが大切な修行となり、自分自身の心  
を整える事が出来るのです。

普段お手洗いで用を足す時や、お掃除をする時も丁寧にやりたいものです。

お手洗いをを使う時は、禅のお寺の「東司」<sup>とうす</sup>を思い起こしてみたいかがでしょうか？